

農作物生育・技術情報5号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況 (7月15日現在)

品種名	生育状況			生育の遅速
	項目	28年	平年	
ななつぼし	草丈	54.6cm	65.5cm	- 3
	葉数	9.8葉	10.3葉	
	m ² 莖数	507本	623.7本	
	幼形期	7/7	7/4	

6月下旬からの低温により、幼形期は3日遅れていますが、成苗ポット育苗や「ゆめぴりか」等の品種によっては、止め葉が完全に抽出しているほ場も見られ、ほ場によって生育にバラツキが見られます。

自分のほ場を確認して、生育にあつた水管理を行いましょ。

技術対策

○冷害危険期終了の時期をつかむ

止葉が完全に出て「止葉の葉耳」と「前葉の葉耳」の間が「+5cm」となる頃まで（全莖の8割の葉耳間長が「+5cm」になるまで）です。

※ 冷害危険期の終了後は、根に酸素を供給するため直ちに落水し中干しを行います。中干しのポイントは、出穂直前まで水田内を歩行しても、ぬからない程度です。その後は湛水状態に戻しましょう。

○いもち病の発生について

北海道病害虫防除所BLASTAM(ブラスタム)より、日高管内では、いもち病準感染好適日が7月中旬に出ましたが、その後は出ていません。今後もしもち病が発生しそうなほ場は、特に注意して観察しましょう。

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト ハウス桃太郎 桃太郎ギフト 桃太郎8 桃太郎セレクト	<ul style="list-style-type: none"> 3月定植は第5～6段花房の収穫が始まっている。第8段花房で摘芯。 4月定植は7～8段目が開花し第2～3段花房の収穫が始まっている。 5月定植は6～7段目が開花し、第1～2段花房を収穫中である。一部4～5段目に落花が見られる。 6月定植は第4段目が開花している。 灰色かび病、葉先枯れ症状、アブラムシ類、アザミウマ類が一部のほ場で発生している。 	<ul style="list-style-type: none"> 気象変動が激しい状況が続いているので、「灰色かび病・葉かび病」の発生に注意が必要。ベツ内側の葉を中心に摘葉を行い風通しを良くすると共に薬剤のローテーション防除を行う。 強日照が予想される場合は、しゃ光資材や二重カーテンを利用し、日やけ果等を防止する。 アブラムシ類やアザミウマ類の寄生が確認されたら早めに防除を行う。
ハウス軟白ねぎ 杓イトト等	<ul style="list-style-type: none"> 3月定植作型収穫中。 アツクハモク、リハエ、タマキハエ、アザミウマ類の発生が多い。 日射量の増加により葉先枯れが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> タマキハエ防除は土壌深2～3cmまで薬液が浸みるようにする。 アザミウマ類が多発した場合は散布量を多くする。 ハウス周囲の除草を行い、収穫調製時の残渣を放置しない。

作物名	生育状況	技術対策
アスパラガス (ハウス立茎) スーパーウエルカム	・アザミウマ類、斑点病、灰色かび病の発生が見られる。	・ハウス周辺の除草を行う。 ・摘葉後の残渣を整理する。 ・土壌乾燥、高温に注意する。

*日高管内でネギアザミウマに対する合成ピレスロイドの抵抗性が確認されました。この抵抗性は抵抗性のやや強いタイプⅢです。今後は合成ピレスロイド系薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行いましょう。

3 畑 作

(1) 秋まき小麦

品質向上に向けて、収穫開始時における子実水分は35%とします。
水分測定により収穫時期を判断しましょう。

*赤かび病の多発したほ場は別列とし、分けて乾燥調整作業を進めましょう。

(2) ばれいしょ

開花後は茎葉から塊茎へのデンプン等の養分転流量が増加する時期です。
また、茎葉は病害に侵されやすくなるので疫病や軟腐病等の発生に注意が必要です。
生育を良く観察し、多発生環境に注意しながら予防的防除に努めましょう。

【防除例】

多発生環境		疫病 18~20℃ 多湿	軟腐病 25~30℃ 多湿 寝苦しい夜が続くと要注意
防除例	未発生ほ場	グリーンペンコゼブ水和剤 フロンサイド水和剤 ダコニールエース	コサイド3000
	発生ほ場	ホライズンドライフロアブル フロンサイド水和剤	スターナ水和剤

(3) 豆類

○大豆 ベと病の発生が上位葉に多い場合は防除しましょう。

○小豆 菌核病、灰色かび病の防除は開花始後7~10日目に1回目防除しましょう。

【防除例】スミレックス水和剤

(4) てんさい

○褐斑病 高温、多湿条件で発生しやすい。連作や前年発生した隣接畑では早期の発生や、多発生の恐れがあるため、定期的防除に心がけましょう。

○ヨウトウガ、カメノコハムシ食害を確認後、薬剤を茎葉処理しましょう。

*てん菜栽培技術情報を参考に防除を実施してください

4 農薬の安全使用

◎農薬使用基準を遵守しましょう。

農薬のラベルを良く確認し、適用作物、使用量・濃度、使用時期、総使用回数、使用期限等の基準を必ず守りましょう。

◎農薬の飛散に気をつけましょう。

水稻の防除作業が本格的に行われています。

水田防除時には、隣接しているビニールハウスの入口、側面を閉め、農薬飛散防止に努めましょう。

